



7月に入りましたね。梅雨も明け、いよいよ本格的な夏が始まろうとしています。そこで、今月は図書館にある本の中から、「**図書委員おすすめ！夏に読みたい本3選**」を紹介します！

「西の魔女が死んだ」 梨木 香歩 著



中学に進んでまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女こと、大好きなおばあちゃんのもとで過ごした。おばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受けるのだが、魔女修行の肝心かなめは何でも自分で決めるということだった。喜びも希望も、もちろん**幸せ**も……。

魔法は日常の色々な場所にあって、誰にでも使えるもの。ただ、魔法の存在に気付かないだけ…。あたたかく、静かだけれど芯の通った強さのある物語です。

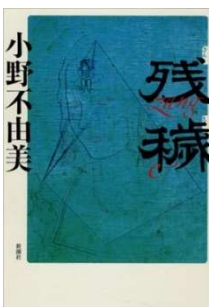
「ジェミーと走る夏」 エイドリアン・フォゲリン 著



12歳の少女**キャス**は、父さんが建てた高いフェンスのすきまで、同じ年の**ジェミー**と出会った。隣に引っ越してきた黒人の少女ジェミーは、キャスと一緒に走るのが大好き。黒人嫌いの父さんには内緒で、ジェミーと秘密の交流を続けるキャス。でも、ある日、お互いの家族に見つかってしまい……。

人種の違いという壁を越えて、ただひたすらに走り続ける二人の少女。読後は爽やかな気持ちになれて、これからの未来に希望が持てる一冊です。

「残穢」 小野 不由美 著



怨みを伴う死は「**穢れ**」となり、伝染し拡大する
 畳を擦る音が聞こえる、いるはずのない赤ん坊の泣き声がある、何かが床下を這いずり回る気配が……。だからこの家には人が居着かない。何の変哲もないマンションで起きる怪異を調べるうち、ある因縁が浮かび上がる。迫りくる**恐怖**は、どこまでが真実なのか……。

最後は趣向を変えて、ホラー小説を一つ紹介します。
 これは、最近ありがちな「ただ怖がらせるだけの作品」ではありません。
 些細な出来事に始まり、バラバラの糸を手繰り寄せていく内に、一本の**呪い**に繋がる……。
 驚かせることがホラーではない。徐々にやってくる恐怖をお楽しみください。

どうでしたか？気になる本は見つかりましたか？
この他にも、夏に関連した本は図書館内にたくさんあります。
ぜひ借りてみてくださいね！

